

施策目標に関する中長期的な目標と成果指標(24年度実績評価用)

政策目標9 基礎研究の充実及び研究の推進のための環境整備

施策目標(テーマ)	達成目標	主な成果指標(アウトカム)／活動指標(アウトプット)
2 科学技術振興のための基盤の強化	1 先端計測分析技術・機器及びその周辺システムの開発を推進することにより、創造的・独創的な研究開発活動を支える基盤が整備される。	【成果指標(アウトカム)】 ① 成果の活用状況 (実績:活用事例、企業から製品化された製品の売上高/目標:オンリーワン・ナンバーワンの先端計測分析技術・機器の実用化や製品化を通じた研究基盤強化への貢献) 【活動指標(アウトプット)】 ② 開発された要素技術のうち、計測分析機器の性能を飛躍的に向上させた成果の割合(%) (23年度実績:86%/目標:28年度・85%) ③ 開発されたプロトタイプ機のうち、最先端の科学技術に関するデータ取得が可能な成果の割合(%) (23年度実績:74%/目標:28年度・85%) ④ 性能実証を終えたプロトタイプ機のうち、受注生産可能な段階である成果の割合(%) (23年度実績:89%/目標:28年度・85%) ⑤ 成果をより広く社会に普及し、活用を促進させるための社会への情報発信(論文、特許出願、報道発表、共同プレス発表)件数(23年度実績:757件/目標:24年度・前年度より増) ⑥ プロトタイプ機の製品化件数(23年度実績:24件/目標:25年度・40件)
	2 大学、独立行政法人等の有する先端研究施設の産業界等による共用を推進することにより、研究開発投資の効率化及びイノベーションにつながる成果が創出される。	【成果指標(アウトカム)】 ① 成果の活用状況 (実績:活用事例/目標:先端研究施設の共用を通じたイノベーションへの貢献) 【活動指標(アウトプット)】 ② 1施設当たりの、共用を実施した課題の件数(事業全体) (23年度実績:19件/目標:24年度・前年度より増) ③ 1施設当たりの、有償利用として共用を実施した課題の件数 (23年度実績:12件/目標:24年度・前年度より増)
【施策の概要】 先端的な研究施設・設備・機器、知的基盤等は、独創的・先端的な基礎研究からイノベーション創出に至るまでの科学技術活動全般を支える基盤として不可欠なものであることから、その整備や効果的な利用を促進する。	3 ライフサイエンスに係る研究成果の実用化のための橋渡し研究を支援する拠点整備等を推進することにより、研究開発投資の効率化及びイノベーションにつながる成果が創出される。	【成果指標(アウトカム)】 ① 成果の活用状況 (実績:活用事例/目標:ライフサイエンスに係る研究を支援する拠点整備等を通じたイノベーションへの貢献) 【活動指標(アウトプット)】 ② 実験動物(ショウジョウバエ)の系統保存数(系統数) (23年度実績:42,776/目標:25年度・実験動物の効率的な保存) ③ 実験植物(イネ)の系統保存数(株数) (23年度実績:18,981/目標:25年度・実験植物の効率的な保存) ④ 化合物提供件数(積算) (23年度実績:85/目標:24年度・120件) ⑤ 放射光施設外部利用件数 (23年度実績:761/目標:24年度・1,080件) ⑥ 橋渡し研究支援拠点で支援しているシーズ数(積算) (23年度実績:110/目標:28年度・110件)
	4 平成24年9月末の共用開始を目指し、スーパーコンピュータ「京」を中核とするHPCIを構築するとともに利用体制を整備する。また共用開始後、画期的な研究成果の創出に向けた利用が継続される。	【成果指標(アウトカム)】 ① 成果の活用状況 (実績:活用事例/目標:「京」及びHPCIの共用を通じた革新的研究成果の多数発表などによる、基礎研究の振興やイノベーション創出への貢献) 【活動指標(アウトプット)】 ② スパコン「京」の平成24年の完成・共用等 (23年度実績:順調/目標:24年度・共用開始により、産学官の研究者に広く利用される研究基盤を整備) ③ HPCIの構築状況 (23年度実績:順調/目標:24年度・共用開始により、産学官の研究者に広く利用される研究基盤を整備)
	5 原子レベルの超微細構造、化学反応の超高速動態・変化を瞬時に計測・分析することを可能とする世界最高性能の研究基盤である、X線自由電子レーザー施設(SACLA)について、革新的な利用研究成果が創出される。	【成果指標(アウトカム)】 ① 成果の活用状況 (実績:活用事例/目標:SACLAの共用を通じた研究成果の多数発表による、基礎研究の振興やイノベーション創出への貢献) 【活動指標(アウトプット)】 ② 課題応募数(22年度実績:—/目標:24年度・100件) ③ XFEL施設の開発・整備状況 (23年度実績:共用開始/目標:24年度・年間を通じた共用運転)
6 物質の種類や構造、様々な環境下での物質の状態等の解析を可能とする大型放射光施設(SPring-8)において、研究成果の一層の創出・質的向上が図られる。	【成果指標(アウトカム)】 ① 成果の活用状況 (実績:活用事例/目標:SPring-8の共用を通じた革新的研究成果の多数創出による、基礎研究の振興やイノベーションへの貢献) 【活動指標(アウトプット)】 ② 利用時間(23年度実績:4115時間/目標:24年度・4000時間) ③ 集計年度末までに登録された、過去3年間のSPring-8を利用した研究の発表論文数の平均値(23年度実績:677件/目標:24年度・610件)	

【担当課(関係課)】
 研究振興局 基盤研究課
 (同局ライフサイエンス課、情報課、基盤研究課量子放射線研究推進室)

7 世界最高レベルの大強度陽子ビームを用いて発生させた多彩な二次粒子を用いた様々な研究を実施可能な大強度陽子加速器施設(J-PARC)において、研究成果の一層の創出・質的向上が図られる。

【成果指標(アウトカム)】
① 成果の活用状況
(実績:活用事例/目標:J-PARCの共用を通じた革新的研究成果の多数発表による、基礎研究の振興やイノベーション創出への貢献)

【活動指標(アウトプット)】
② 施設運転時間
(22年度実績:3401時間/目標:24年度・4224時間)

達成手段

達成手段 (事業・税制措置・諸会議等)	23年度 当初予算額 (千円)	23年度 補正予算額 (千円)	24年度 当初予算額 (千円)	達成手段の概要	行政事業 レビュー シート 番号	関連する 指標	担当課
ナショナルバイオリソースプロジェクト	1,325,000	-	1,425,000	大学、研究機関等を対象に実施機関を公募し、実験用動植物等の収集・保存・提供を行う拠点の整備やバイオリソースの系統・特性情報、ゲノム配列等の整備、保存や品質管理の技術開発、バイオリソースの所在情報や遺伝情報のデータベースの構築を実施する。	0249	3-①~③	ライフサイエンス課
創薬等ライフサイエンス研究支援技術基盤事業	2,267,776	-	3,290,328	創薬・医療技術に活用可能な最先端の計測・分析装置等を企業や大学等に対して広く共用するとともに、共同利用の促進に取り組む。また、広く研究者が最先端の創薬・医療技術支援基盤を共用する取り組みを支援するとともに、研究者等の利便性及び研究の効率性の観点から、これらの基盤が一体として活用できる体制を整備し、共用のために必要な運営経費等を支援。	0250	3-①、④、⑤	ライフサイエンス課
橋渡し研究加速ネットワークプログラム	3,000,000	-	3,268,000	全国に設置した橋渡し研究支援拠点において、研究開発支援に必要な生物統計家・知財専門家等の人材の確保・登用を進め、OJTIによる育成を行い拠点のシーズ育成能力の強化を図るとともに、拠点における自己収入の確保を促進することで恒久的な橋渡し研究支援拠点を確立させる。(修正理由:第二期の主旨に合わせたため)	0251	3-①、⑥	ライフサイエンス課
先端研究施設共用促進事業	1,293,026	-	1,293,026	大学・独立行政法人等の保有する先端研究施設の共用を促進することにより、基礎研究からイノベーション創出に至るまでの科学技術活動全般の高度化を図るとともに国の研究開発投資の効率化を図る。	0252	1-①~⑥	基盤研究課
革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ(HPCI)の構築	21,117,000	-	19,941,780	今後とも我が国が科学技術・学術研究、産業、医・薬など広汎な分野で世界をリードし続けるため、スーパーコンピュータ「京」を中核とし、多様な利用者のニーズに応える革新的な計算環境(HPCI:革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ)を構築するとともに、この利用を推進し、地震・津波の被害軽減や、グリーン・ライフイノベーション等へ貢献。	0253	4-①~③	情報課
大型放射光施設(SPring-8)の共用	8,257,000	-	8,268,193 (※)	世界最高の明るさ・品質の放射光を利用して、物質の種類や構造解析、様々な機能の解析や分析を可能にする大型放射光施設(SPring-8)について、必要な運転時間の確保及び利用環境の充実に努め、学術界・産業界の広範な分野の研究者等の利用に供することにより、我が国の科学技術の発展や国際競争力の強化に貢献する。 ※24年度より、SPring-8とSACLAの利用促進交付金を一本化(計1,410百万円)。便宜的に23年度予算額の比率で各施設相当分を算出。	0254	6-①~③	基盤研究課 量子放射線研究推進室
X線自由電子レーザー(XFEL)の開発・共用	4,655,126	-	6,535,653 (※)	従来の10億倍を上回る高輝度のX線レーザーを発振し、物質の原子レベルの超微細構造や化学反応の超高運動態・変化を瞬時に計測・分析することを可能とする最先端の研究基盤施設「X線自由電子レーザー施設(SACLA)」について、開発・整備を進め、必要な運転時間を確保するとともに、重点戦略課題の推進及び研究環境の充実に努め、広く研究者等の利用に供することにより、ライフサイエンス、ナノテクノロジー・材料などの様々な科学技術分野において先端的研究を推進する。 ※24年度より、SPring-8とSACLAの利用促進交付金を一本化(計1,410百万円)。便宜的に23年度予算額の比率で各施設相当分を算出。	0255	5-①~③	基盤研究課 量子放射線研究推進室
大強度陽子加速器施設(J-PARC)の整備・共用	7,013,467	-	8,563,477	世界最高レベルのビーム強度を有し、中性子やニュートリノ等の多彩な二次粒子を用いた新しい研究手段を提供する大強度陽子加速器施設(J-PARC)について、物質科学、生命科学、原子核・素粒子物理学など、基礎科学から産業応用までの幅広い研究開発を推進する。	0256	7-①、②	基盤研究課 量子放射線研究推進室

(参考)関連する独立行政法人の事業

事業	23年度 当初予算額 (千円)	23年度 補正予算額 (千円)	24年度 当初予算額 (千円)	達成手段の概要	行政事業 レビュー シート 番号	関連する 指標	担当課
独立行政法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費	<104,817,724>の内数	-	<100,646,191>の内数	・研究成果展開事業(先端計測分析技術・機器開発プログラム) 科学技術の共通基盤を支え、最先端かつ独創的な研究成果を生み出すキーテクノロジーである先端計測分析技術・機器について、革新的な要素技術、機器開発やプロトタイプ機の性能実証、成果の社会還元等を推進する。平成24年度より、ターゲット指向型の研究開発を強化する。	0232	1-①~⑥	基盤研究課
独立行政法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費	<104,817,724>の内数	-	<100,646,191>の内数	・ライフサイエンスデータベース統合推進事業 我が国におけるライフサイエンス研究の成果が、広く研究者コミュニティに共有かつ活用されることにより、基礎研究や産業応用研究につながる研究開発を含むライフサイエンス研究全体が活性化されることを目指し、総合科学技術会議ライフサイエンスPT統合データベース推進タスクフォースが示す方針の下、様々な研究機関等によって作成されたライフサイエンス分野データベースの統合に向けた、戦略の立案、ポータルサイトの構築・運用及び研究開発を推進し、ライフサイエンス分野データベースの統合に資する成果を得る。	0232	3-①	ライフサイエンス課
独立行政法人理化学研究所運営費交付金に必要な経費	<58,377,907>の内数	-	<58,076,117>の内数	・バイオリソース事業 生物遺伝資源(バイオリソース)の収集・保存・提供を通じて、我が国のライフサイエンス研究の推進及び基盤整備を進め、ナショナルバイオリソースプロジェクトにマウス、シロイヌナズナ、ヒト・動物細胞、遺伝子、一般微生物の中核的機関として参画。 ・放射光科学研究事業 大型放射光施設(SPring-8)の広範な分野での先端的利用や、光科学の研究基盤開発を実施。	0281	3-①、6-①、6-③	ライフサイエンス課、基盤研究課 量子放射線研究推進室

<修正のポイント>

○達成目標4については、共用開始時期を明確に記載するなど時点修正を行った。
○達成目標7については、J-PARCが平成23年3月の東日本大震災により被災し23年度内は運転を停止しており、平成23年度の実績は指標として適切な値ではないため、平成22年度の実績を記載した。